

2016/6/27 北海道新聞

釈放の袴田巖さん 日常追う作品上映

1966年に静岡県で起きた一家4人殺害事件で死刑判決が確定後、2014年の再審開始決定で48年ぶりに釈放された袴田巖さん(80)の日常を追ったドキュメンタリー映画「袴田巖 夢の間の世の中」の上映会が26日、札幌市内で開かれた。上映後に姉の秀子さん(83)と金聖雄監督が袴田さ

んの近況を語った。

日本国民救援会北海道本部の主催。映画は、長期間の拘束生活の影響で独り言が多く、自分の世界に閉じこもりがちだった袴田さんが、秀子さんらと過ごすうちに表情豊かに変化していく様子を記録した。

上映後、秀子さんは「最



上映後に袴田さんの近況などについて語る(右から)金監督と秀子さん

近は家の中を歩き回るものが少なくなり、街に出るようになった。認知症の可能性があると言われたが、身の回りのことは全て自分でできる」と話した。金監督は「拘置所で非人間的な生活を続けてきた巖さんが、当たり前の日常を過ごすことで命を再生させる姿を見ることができた」と話した。再審開始決定後に検察側が即時抗告したため、再審の是非をめぐる審理は今も続いている。秀子さんは「もし再び巖が拘置所に連れて行かれることになったら、私が代わりに入る。そのぐらいの気持ちでいます」と語気を強めた。